

平成30年度青少年意見募集事業  
第3回ユース・ラウンド・テーブル実施結果について

1. 実施の趣旨

(1) 本事業の趣旨・目的

ユース・ラウンド・テーブルは、ユース特命報告員が特定のテーマの関係府省の担当者  
と対面して直接意見を交わすイベントであり、内閣府が従来から行っている「青少年意見  
募集事業」の関連事業として以下の目的・趣旨に基づき実施している。

- 子供や若者の考えを直接把握し、子供・若者育成支援施策の企画・立案に活用する。
- 子供・若者から聴取した意見を関係府省へフィードバックすることで、子供や若者の  
社会参画意識の向上に寄与する。
- 子供・若者政策を担当する職員が直に子供・若者と接する機会を設ける。

(2) 今回実施の背景

現在、「文化芸術基本法」に基づいて、生活文化の振興や国民娯楽の普及を図るために様々  
な取組を行っている。

しかしながら、平成29年度に実施した「生活文化等実態把握調査」においては、回答者  
の8割以上が、現在、生活文化等に関する活動を継続出来ていない状況にあり、関係団体の  
最大の課題は、「会員の高齢化」と「会員数の減少」であるという結果となった。

こうしたことから、暮らしの文化の振興・普及に効果的な施策を展開していくためには、  
若者が暮らしの文化に興味を持ったり携わることが重要であるといえる。

2. 実施内容

(1) 実施時期・会場

日時：平成30年12月7日（金）18:00～20:00

会場：中央合同庁舎8号館4階416会議室

(2) テーマ

「若者の暮らしの文化に対する意識について」（提案元：文化庁）

暮らしの文化の振興・普及に効果的な施策を展開していくためには、若者が暮らしの文  
化に興味を持ったり携わることが重要であるため、以下の内容について意見を聴く。

【テーマ1】

暮らしの文化は大切だと思うか思わないかとその理由、また、自分がそれをやりたいと  
思うか思わないかとその理由

【テーマ2】

暮らしの文化（和食／茶道・華道）を次世代に引き継ぐための方策

## 第3回ユース・ラウンド・テーブル実施結果について

### (3) 参加者

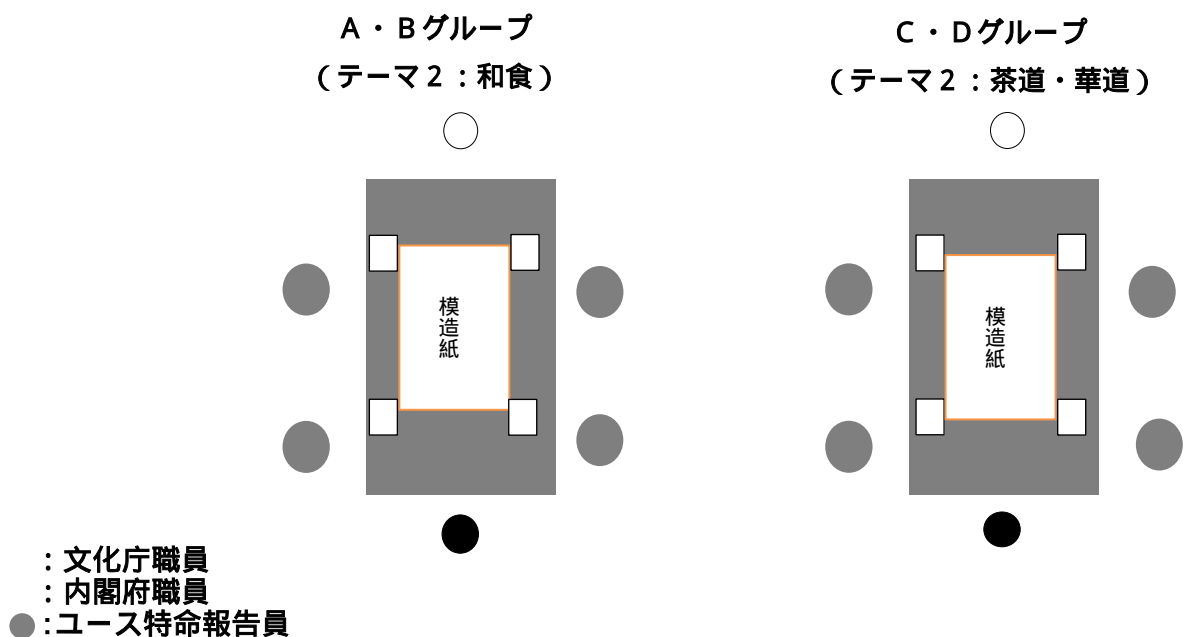
- ・ユース特命報告員 16名（中学生3名、高校生4名、大学生・専門学校生・短大・大学院生5名、社会人4名）
- ・内閣府職員 4名
- ・文化庁職員 5名

### (4) 実施方法

#### < タイムスケジュール >

18:00-18:20	<b>開会、オリエンテーション</b> (20分) ・事務説明 ・冒頭挨拶(文化庁) ・テーマとディスカッションの流れについて説明(文化庁) ・暮らしの文化の現状についての説明(文化庁)
18:20-18:50	<b>導入、意見交換(第1部)</b> (30分) ・自己紹介、発表者決め ・【テーマ1】について意見交換
18:50-19:20	<b>意見交換(第2部)</b> (30分) ・【テーマ2】について意見交換
19:20-19:25	<b>発表の準備</b> (5分) ・意見交換・議論した内容を、発表に向けてまとめる。
19:25-19:45	<b>発表(全体)</b> (各グループ3~5分) ・グループごとに発表
19:45-20:00	<b>閉会</b> (15分) ・総評(文化庁) ・アンケート記入

#### < 配席図 >



### 3. 意見交換で出された主な意見及びとりまとめ結果

各グループで出された主な意見は以下のとおり。

#### Aグループ(和食)

グループ構成：6名(高校生1名、大学生・専門学校生・短大・大学院生2名、社会人1名、内閣府職員1名、文化庁職員1名)

##### 【テーマ1】

<暮らしの文化は大切だと思うか思わないかとその理由、また、自分がそれをやりたいと思うか思わないかとその理由>

暮らしの文化は大切だと思うし、やりたい

- ・前の世代から継承された文化や伝統を次世代に引き継ぐことは大事だから。
- ・国特有の文化があると、観光にも生かせる。
- ・アイデンティティの共有は、地域コミュニティ維持への貢献になる。
- ・コミュニティでの一体感を持つことができる。

暮らしの文化は大切だと思うが、やりたくない・できない

- ・華道等は才能が求められるように感じる。
- ・機会が少なく、コストも高い。
- ・厳格なイメージがあり、若者を歓迎する雰囲気になさそう。
- ・失われると再現できない上、多様な価値観を維持するために必要。
- ・やっている人はすでに生活の一部となっている。

暮らしの文化は大切だと思わないが、やりたい

- ・有名人がやっているのを見て、関心をもった。

暮らしの文化は大切だと思わないし、やりたくない・できない

- ・どのように暮らすかは個人の自由であるため、強制するものではない。
- ・時代にそぐわない価値観を無理に残す必要はない。

##### 【テーマ2】

<暮らしの文化(和食)を次世代に引き継ぐための方策>

情報発信

- ・和食に係わるイベントを実施し、周知を行う。
- ・ドラマに取り入れて関心をもってもらい、観光に結びつける。
- ・イベントやメディアの発信で、まずは認知度をあげる。

学校での体験・学習機会の創出

- ・地域内でホームステイをして、地域の食文化を知ってもらう。
- ・コミュニティ単位で料理教室を開催し、地域コミュニティの維持に結びつける。
- ・家庭科や給食等、学校で体験・学習することで、機会を創出する。

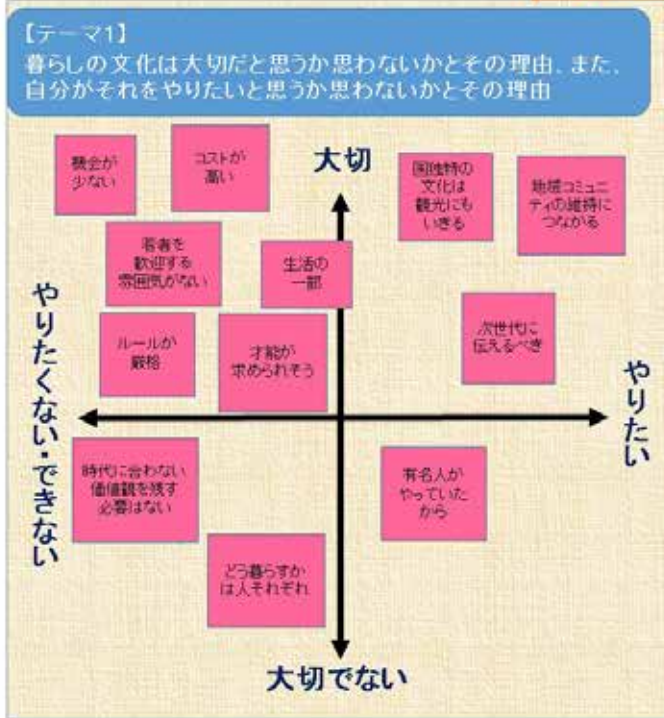
その他

- ・いただきます割引(店員さんに「いただきます」と言うと割引されるサービス)を

### 第3回ユース・ラウンド・テーブル実施結果について

- 導入して、規則正しい挨拶に馴染んでもらう。
- ・安価で利用しやすい和食チェーン店を展開する。

#### Aグループ(和食)



**Bグループ**

グループ構成：6名(中学生1名、高校生1名、大学生・専門学校生・短大・大学院生1名、  
社会人1名、内閣府職員1名、文化庁職員1名)

**【テーマ1】**

<暮らしの文化は大切だと思うか思わないかとその理由、また、自分がそれをやりた  
いと思うか思わないかとその理由>

暮らしの文化は大切だと思うし、やりたい

<華道>

- ・学校でやった経験がないので、授業に取り入れてほしい。
- ・家族がやっていないと、子供には受け継がれないと思う。

<和食>

- ・伝統的に受け継がれているものであり、美味しいから。
- ・最近、洋食が多いと思うから。

<お祭り>

- ・地域コミュニティ内の交流にもつながる。

<和菓子>

- ・見た目が美しく、味も美味しい。

暮らしの文化は大切だと思うが、やりたくない・できない

<茶道>

- ・学べることは多いと思うが、ルール等が厳しいイメージがある。
- ・費用が高いため、通うのが難しい。

<懐石料理・郷土料理>

- ・懐石料理は敷居が高いイメージがある。
- ・郷土料理は授業で習う程度であり、実際に教わる機会がない。

暮らしの文化は大切だと思わないが、やりたい

<娯楽>

- ・かるた等は楽しく、交流にもなる。

暮らしの文化は大切だと思わないし、やりたくない・できない

<茶道>

- ・経験したことがないと、作法がわからない。

**【テーマ2】**

<暮らしの文化(和食)を次世代に引き継ぐための方策>

家庭

- ・家でも普段からお米や、和食を食べる。
- ・和食は使用調味料や調理工程が多い印象であるため、調理工程を見直す。
- ・家でお米を炊く習慣をつけて、お米を中心に自炊する。

学校

- ・和食の給食を増やし、学校給食にさらに取り入れていく。

### 第3回ユース・ラウンド・テーブル実施結果について

- ・家庭科で和食について学ぶ機会を設ける。
- ・学校で暮らしの文化に触れる機会を増やす。

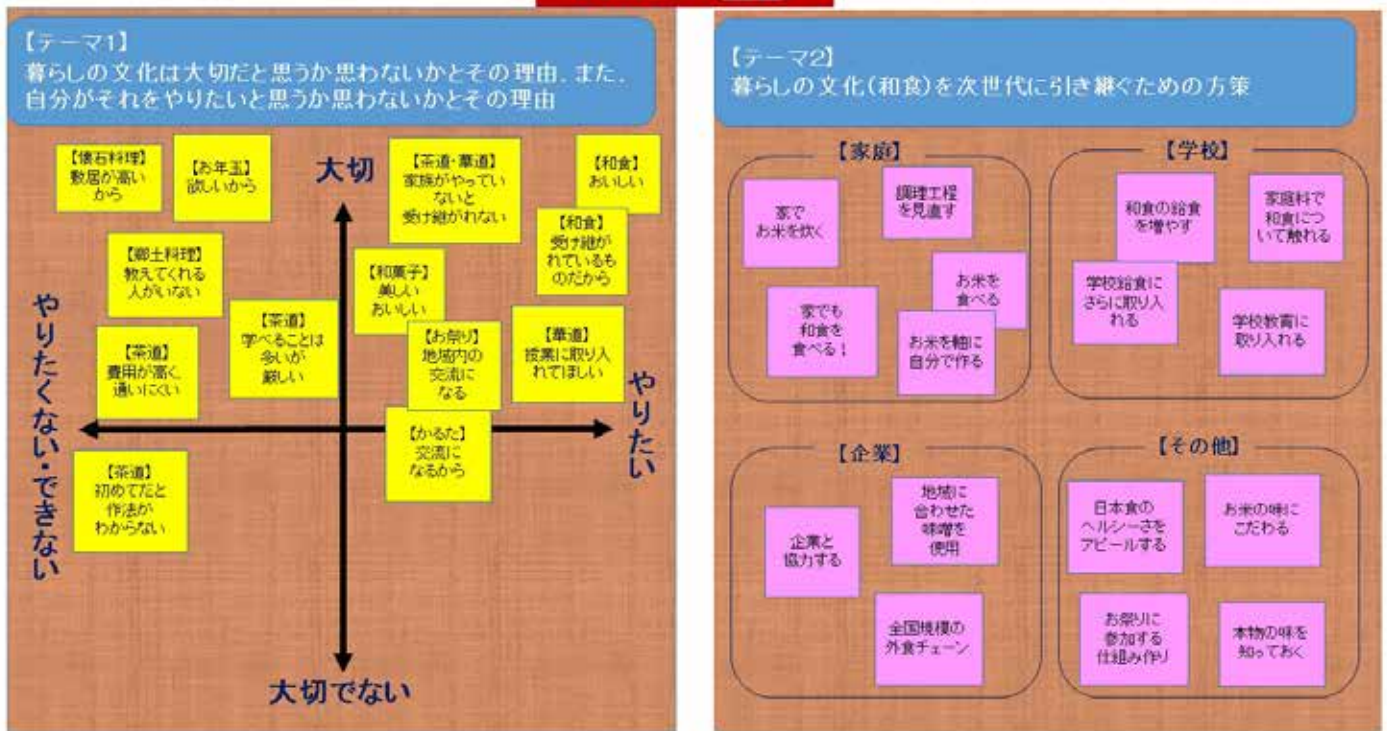
#### ○企業との協力

- ・全国規模の外食チェーンは、日本人の味覚に多大な影響を与えるので、企業と協力できればよい。
- ・企業等に地域に合わせた味噌を使用してもらおう。

#### ○その他

- ・お祭り等は地域コミュニティづくりにもなるので、参加しやすい仕組みをつくる。
- ・日本食のヘルシーさを海外だけでなく、日本国内にもアピールする。
- ・お米の味にこだわり、本物の「和食」の味を知っておく。

### Bグループ(和食)



Cグループ

グループ構成：6名（中学生1名、高校生1名、大学生・専門学校生・短大・大学院生1名  
社会人1名、内閣府職員1名、文化庁職員1名）

【テーマ1】

<暮らしの文化は大切だと思うか思わないかとその理由、また、自分がそれをやりた  
いと思うか思わないかとその理由>

暮らしの文化は大切だと思うし、やりたい

- ・日本人の教養として、日本の文化を知ることが大切である。
- ・外国へのアピールとして活用できる。
- ・とにかく面白そうであるから。

暮らしの文化は大切だと思うが、やりたくない・できない

- ・習い事として行うには、月謝が高い。
- ・近くに教えてくれるような人がいないため、タイミングがない。
- ・閉鎖的なイメージがあるため、なかなか飛び込めない。
- ・時間が確保できない。

暮らしの文化は大切だと思わないし、やりたくない・できない

- ・現代では、需要があまりないように感じてしまう。
- ・敷居が高いイメージがある。

【テーマ2】

<暮らしの文化（茶道・華道）を次世代に引き継ぐための方策>

生活・経済面

- ・月謝引き下げを条件に、補助金を交付して通いやすくする。
- ・職業としてもやっていけることを周知する。
- ・低廉であることをアピールする。

情報発信

- ・ゲーム化やアニメ化で周知を行う。
- ・芸能人やアーティストを起用したCMやドラマを放映する。
- ・SNSで紹介する。

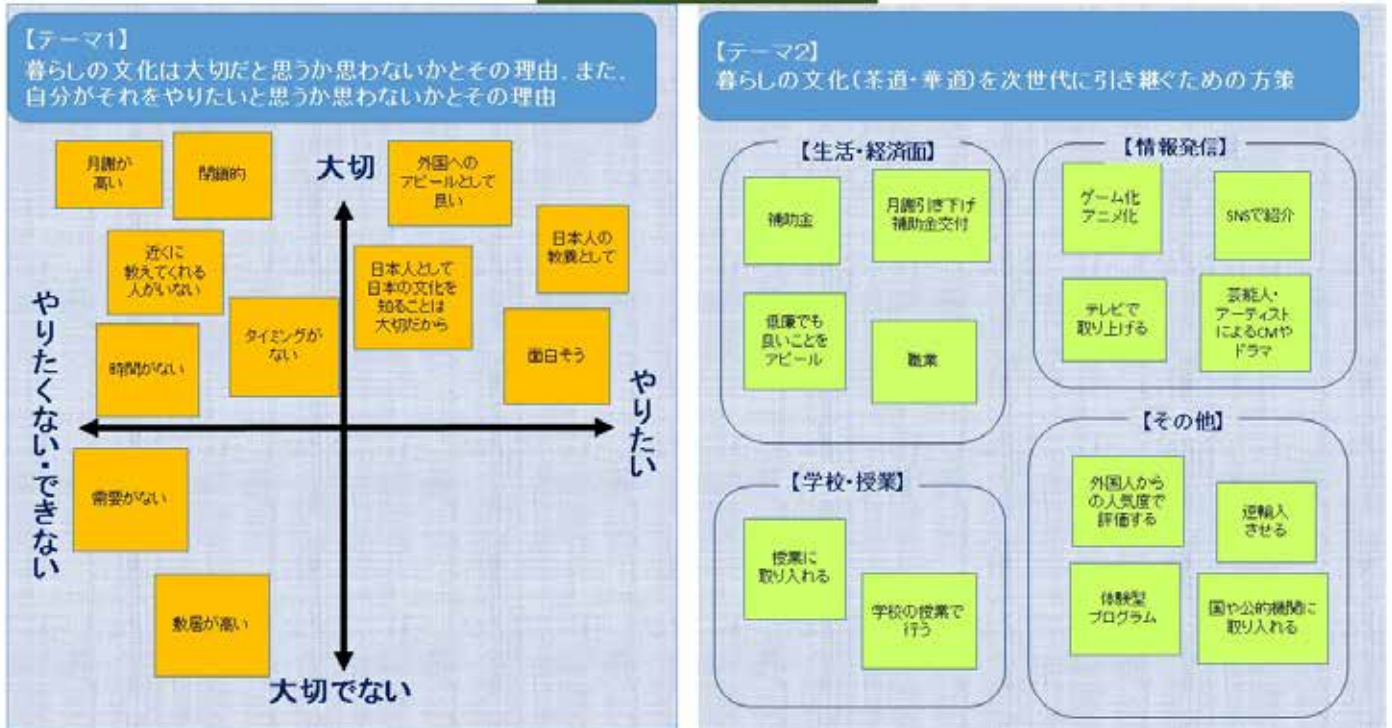
学校・授業

- ・学校の授業に取り入れる。

その他

- ・外国で流行させて、逆輸入を狙う。
- ・体験した外国人数の観点に立ち、国内でも人気度を周知する。
- ・レンタル着物と茶道・華道体験のセットプログラムを実施する。
- ・国や公的機関の職員に体験を義務づける。

Cグループ(茶道・華道)





Dグループ

グループ構成：7名（中学生1名、高校生1名、大学生・専門学校生・短大・大学院生1名、社会人1名、内閣府職員1名、文化庁職員2名）

【テーマ1】

<暮らしの文化は大切だと思うか思わないかとその理由、また、自分がそれをやりた  
いと思うか思わないかとその理由>

暮らしの文化は大切だと思うし、やりたい

- ・世代を超えたコミュニケーションツールとして、交流が広がる。
- ・周りがやっていないので、格好良い。話題のネタにもなるし、すごいと思ってもらえる。
- ・文化の意味をきちんと伝え、広めていくことが重要。
- ・自国の文化を友達や外国人に教えられるようになる。
- ・時代の変化に合わせて取り組んでいきたい。
- ・伝統や地域らしさを感じることができる。

暮らしの文化は大切だと思うが、やりたくない・できない

- ・敷居が高く、閉鎖的な印象がある。受け入れ側の体制も整っていない。
- ・お金がかかってしまうイメージがある。
- ・やるべきことが他にあるし、スマートフォンをいじっている方が楽しい。
- ・現在体験できる場所が少ない。
- ・学生が参加できる時間にやっている体験が少ない。
- ・良いことだと思っても、周りにやっている人がいないため、恥ずかしく感じてしまう。

暮らしの文化は大切だと思わないし、やりたくない・できない

- ・無理に維持する必要はなく、新しい文化を大切にしていくことも重要。
- ・他国との違いをあまり感じられない。
- ・周りでやっている人が少なく、継続している人もいない印象がある。
- ・昔当たり前だったものが、現在でも当たり前のものとは限らないから。

【テーマ2】

<暮らしの文化（茶道・華道）を次世代に引き継ぐための方策>

○娯楽・体験

- ・宿泊プラン等に体験ツアーを組み込み、一体化する。
- ・高齢者（経験者）がもう1度始められるきっかけや機会をつくる。
- ・若者でも親しみやすい茶道・華道のアプリをつくる。
- ・東京や大阪等人口が多い場所で開催をして、周知する。また、人口が少ない場所では地方創生の取組として周知する。
- ・体験できる場所を増やす。
- ・消費のコンテンツとして支援する。
- ・世代間コミュニケーションとして、今と昔が循環できるような視点に立つ。

### 第3回ユース・ラウンド・テーブル実施結果について

- ・親しみやすい簡単な方法から教えるようにする。
- 経済的負担の軽減
- ・会社の福利厚生の一つとして取り入れる。
  - ・税制改正をし、体験すれば減税される仕組みをつくる。
- PR活動
- ・芸能人等の有名人を起用し、PR活動を行う。
  - ・アニメや漫画を活用して広める。
  - ・情報が集約されたHPで、気軽に情報を得られる体制をつくる。
  - ・資格保有者を公表し、身近で体験できる機会を増やす。
- 学校・教育
- ・学童等で実際に体験してもらおう。
  - ・学校内で活動をし、コミュニティを広げていく。
  - ・幼少期に体験がある人が、大人になってからもう1度体験できる場をつくる。
  - ・「美」を体験する学習要領の一環として取り入れる。
  - ・義務教育の間で体験してもらい、身につけられるようにする。

#### Dグループ(茶道・華道)

